第75回春季東北地区 高校野球県大会（14日　みちのく鹿島球場ほか）　第2日

会津北嶺4番が春県初勝利呼んだ

富山弾で8強

2回戦7試合が行われ、8強が出そろった。会津北嶺は学法福島に9―2の8回コールドで快勝。4番・富山紘之進（3年）が初回に右越え3点本塁打を放つなど打線が15安打を放ち春の県大会初出場で初勝利を挙げた。日大東北は福島成蹊を11―0の5回コールドで撃破。先発左腕・堀米涼太（3年）が4回無失点と好投した。準々決勝はあす17日に行われる。

北嶺・富山＝会津北嶺・学法福島▽初回に3ランを放つ会津北嶺の富山（右上）春の県大会初出場で初勝利を飾り、笑顔で駆け出す会津北嶺ナイン

▽2回戦（みちのく鹿島）

学法福島	0	0	0	0	1	0	1	0	2
会津北嶺	4	0	2	0	0	0	1	2x	9

（学）菊地、小野寺、増尾、菊地―梅村（会）高城、渡辺新―富山
㊐富山（会）
▽二塁打＝菊地（学）嘉数、原、長岡、木村、富山（会）

3安打4打点

創部6年目の春。会津北嶺が部史に新たな1ページを刻んだ。初めて立った春の県舞台で悲願の初勝利。みちのく鹿島に吹き荒れる強風も味方につけた。

初回、先頭から3連打で1点を先制。なおも無死一、二塁で打席に立った富山は「先制はしてくれたので気持ちは楽だったんですけど、ランナーを全部還すつもりでいきました」。真芯で捉えた打球は風に乗り、右越えにアーチを描いた。

昨秋の支部予選1回戦・会津連合戦での2打席連続本塁打に続く公式戦第3号。一塁に到達する手前で「ライトが下がったので〝入った〟と思った」。悠々とダイヤモンドを一周すると、本塁で待つ仲間とハイタッチ。歓喜に沸く応援席に向かって右拳を突き上げた。

直前の試合では支部予選決勝で敗れた只見が敗戦。「会津で残っているのは自分たちだけになったので、しっかりと初戦突破しようと思いました」。この試合、富山は3ランを含む3安打4打点。4番の役目をしっかり果たした。

今春の目標にしていた県ベスト8はクリア。準々決勝では3連覇を狙う聖光学院が待ち構える。昨秋の県大会では2回戦の壁を突破できず、挑戦権すら手にできなかった。「夏に向かっていい経験ができるはず。とにかく楽しんでプレーしたい」と原太一主将（3年）。白河の地で王者に挑む。（鶴巻　裕樹）

▲準々決勝で激突▼

▽同　（あいづ）

田村	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	0	0	0	3	0	3	0	0X	6

聖光学院
（田）石川蓮―国分
（聖）北沢、安斎―杉山
㊐樽川（聖）
▽三塁打＝杉山（聖）▽二塁打＝渡辺颯（田）

樽川公式戦1号

＜聖光学院＞6番・樽川遥人（3年）の一発が流れを引き寄せた。4回に1点を先制し、なおも2死二塁でインハイの直球を強振。手応えは「あまりなかったです」と笑ったが、打球は快音とともに右翼スタンドへ吸い込まれた。公式戦第1号に「とにかく来た球を振るだけでした」と汗を拭った。

▽同　（あいづ）

東日大昌平	1	0	1	1	0	0	0	0	3
	0	0	3	0	0	0	0	01X	4

光南
（東）塚本、高橋―山口
（光）北畠、大越、高原―溜田
▽三塁打＝鈴木（東）▽二塁打＝渡部琥（東）芳賀（光）

9回2死からサヨナラ

＜光南＞執念のサヨナラ勝ちだ。2点を追う3回、5番・北畠勇吹（2年）の適時打などで3点を奪い逆転。直後に同点とされたが、9回2死満塁から相手の暴投で決勝点を奪った。2番手・大越来夢（同）は5回1失点と好リリーフ。「1点は取られてしまったが、その後の打者は打ち取れた。最少失点で抑えられたのは良かった」と胸を張った。

▽同　（みちのく鹿島）

只見	0	0	0	3	0	0	0	1	4
郡山	0	0	0	3	1	0	0	1X	5

（只）酒井怜―羽染
（郡）森川、藤田―石田
▽三塁打＝目黒悠（只）▽二塁打＝目黒琳、山内（只）川崎（郡）

藤田逆転呼ぶ好救援

＜郡山＞エース・藤田海斗（3年）が0―3の4回途中から登板。「後輩が先発したので何とか抑えたかった」。なおも2死二塁のピンチを遊ゴロでしのぐと打線はその裏、同点に追いつき、5回に勝ち越した。連投の疲れを見せず、4安打1失点と好投。チームを9大会ぶりの8強に導き「次の試合も背番号1に恥じない投球をしたい」と表情を引き締めた。